



滝川市二の坂町東に構える道内最大級のショールーム。さまざまな墓石デザインや石のサンプルを見られるだけでなく、仏像や仏具なども展示されています



昭和40年代に鶴吉さんが彫った狛犬もショールームに展示



1 2 山崎さんのお父さん、巖さんのお墓。美しいアートガラスと石材の組み合わせはひととき目を引きまします。墓石には孫たちが描いた似顔絵が彫られているほか、想いで.comのQRも付いており、読み込むと故人の写真や動画が閲覧できます 3 パソコンを見ながら想いで.comを説明する山崎さん。お墓の新しい在り方として注目を集めているサービスです



Information

山崎石材工業株式会社
 【ショールーム】
 滝川市二の坂町東1-2-1
 フリーダイヤル 0120-148-230 TEL 0125-23-2708
 営業時間／8:00～18:00(土日祝日もオープン)
 【花月本店】
 滝川市花月町1-1-7
 TEL 0125-23-2979
<https://www.e-ishi.jp>

しかし大切なのは単純なデザイン提案ではないと山崎さん。「大事なのは、お客様の思いを形にすることです」

故人との接点を持てる場所、それがお墓です。ゴルフが大好きだった父だから、墓石をゴルフボールの形にしたい。花が好きだった母のために、墓石一面に四季折々の花を彫りたい。孫が一字ずつ書いた感謝の文字を入れたい。そんな、お墓を建てる人の多彩な思いに寄り添い、形にする。それが生きている人と故人をつなぐ、墓石建造に携わる石材店のあるべき姿勢なの

過去と未来をつなぐ 新しいお墓の在り方

北海道にある先祖の墓参りをしたいと思っても、東京に住んでいたらかなな足を運べません。しかも今はコロナ禍の最中。移動もはばかれる状況です。「こうした事情が墓じまいの動機になります。当たり前ですが、お墓は動けません。ならば、テクノロジーで問題を解決できないか。そんな気持ちで始めたのが『想いで・com』です」

だと山崎さん。だからこそ、継承者不足や遠隔地に住んでいるためにお墓を無くす、いわゆる墓じまいに対して懸念を持っているのだと話します。

「墓じまいの事情は理解できます。でも、お墓は先祖とのつながり。手を合わせる場所が無くなってしまふのは、先祖と向き合う場所がなくなるということ。先祖も含めた家族という絆を失うことは残念です」。山崎さんは静かに言葉を重ねます。

想いで・comは、全国各地の土地に根差した石材店などが連携し、地域にあるお墓を守るサービス。依頼があれば献花や清掃を行うほか、自分が住んでいる地域へお墓を移設する改葬などにも対応可能。そして一番の特徴は、地域にあるお墓を基軸にしなが、インターネット空間にお墓が持つ役割を拡張することです。

「お墓は、先祖と未来の家族をつなぐためのツールです。例えば

ば墓石や墓誌に言葉や戒名・法名を追加彫りするのは家系図を残すことと似ていますが、物理的に限度があります。でもインターネット上ならその限度を大幅に広げることができます」

想いで・comを利用すると、インターネット上に家族の写真や家系図、動画などを掲載し、いつでも、どこからでも自由に閲覧が可能。親戚や故人の友人など、特定のメンバーに向けて法要の日時などを知らせること

もできるそう。ページ管理も必要であれば石材店が行います。「7月1日からサービスを開始しました。現在、当社のお客様だけで50件以上の登録があります」と評判も上々です。

先祖がいるからこそ、今の自分がある。そのつながりを大切にしたいと言葉を結ぶ山崎さん。地域で131年。先祖代々がつないだバトンを受け取った石材店は、その足跡に感謝しながら、未来を見据えています。

途切れない 家族の絆を願って

1890(明治23)年の創業以来、石材店として数々の建造物やモニュメント、そして墓石を造り続けてきた山崎石材工業。5代目社長である山崎修さんに、同社の理念、お墓を取り巻く現在の状況、そして未来について話を聞きました。

巻頭特集

山崎石材工業株式会社が積み重ねた
131年の歴史と未来への展望



明治時代に創業した 地域の石材店

人類が死者を弔い、土中へ埋葬を始めたのは旧石器時代とされています。日本では縄文時代から弥生時代に権力者の墓所である古墳の建造が盛んになり、その後は仏教の伝来とともに、塔や現在の形に近い墓石が造られるようになりました。

山崎石材工業株式会社
 代表取締役 山崎 修 さん
 1992年に開催されたアルペールビルオリ
 ンピックのフリースタイルスキー・モーグル
 日本代表。5代目として企業経営を行う
 のはもちろん、「お墓は人生の物語」
 をテーマに墓石デザインプロ
 デューサーとして活動

庶民が墓石を建てる習慣が始まったのは戦国時代。やがて江戸時代になると檀家制度の定着とともに全国に広がり、明治時代中期になると、それまで個人や夫婦のために建てられていた墓石は、家単位のものとなったそう。こうして定着した習慣が、現在まで連綿と受け継がれているのです。

滝川市に道内最大級となるお墓の展示スペースを展開している山崎石材工業は、1890(明治23)年の創業。「初代である山崎栄太郎は新潟県出身。1887(明治20)年、北海道庁舎の建築に伴って来道しました」と話すのは、5代目社長を務める山崎修さん。石工であり、石造彫刻に長けていた栄太郎さんは、現在の赤レンガ庁舎の建



(上)1890(明治23)年に札幌で創業した山崎石材工業。滝川市花月町に移転したのは1929(昭和4)年のこと。以来、地域で連綿と石材店を営んでいます (左)山崎さんの祖父であり3代目の鶴吉さん。札幌軟石で狛犬や不動明王を彫らせたら右に出る者はいないという腕前の持ち主でした



築に携わっただけでなく、札幌神社や室蘭八幡宮の唐獅子なども手掛けたそうです。

山崎家は代々、石工として仕事に技術をつらぎました。「特に3代目の鶴吉は石造彫刻にとっても長けていました。道内で数多くの狛犬の制作に携わっていて、ある方が記した書籍では山崎型と分類されているくらいです」と山崎さんは笑います。

**墓じまい増加に
痛む心の内**

心を込めて石に技術を施す。時代の変遷とともに山崎石材工業の軸足が墓石建造にシフトしても、理念は変わりません。近年では洋型やモニュメント風の墓石が人気を博していますが、同社でも多彩なデザインに対応。